

4.5.2 保全への取り組み

1) 景観への影響

主要な眺望点及び景観資源の改変の程度について、事業計画を重ね合わせることにより検討を行った（図 4.5.2-1）。

主要な眺望景観の変化については、現況の景観写真へのフォトモンタージュにより検討を行った（写真 4.5.2-1～写真 4.5.2-4）。

(1) 主要な眺望点

事業計画との重ね合わせ結果を図 4.5.2-1 に示す。事業の実施により改変される主要な眺望点はなく、これらへの影響はない。

(2) 景観資源

事業計画との重ね合わせ結果を図 4.5.2-1 に示す。事業の実施により改変される景観資源はなく、これらへの影響はない。

(3) 主要な眺望景観

主要な眺望点である国見山、榊形山及び仰烏帽子山の山頂からの現況の眺望景観及びダム供用後の想定される眺望景観（フォトモンタージュ）を写真 4.5.2-1～写真 4.5.2-4 に示す。

なお、フォトモンタージュの作成においては、貯水池の水位は常時満水位（EL. 280.0m）及び第 1 期制限水位（EL. 252.2m）とした。また、国見山の山頂から見える頭地代替地は、既存の他事例の代替地の空中写真を参考に、見え方を想定してフォトモンタージュを作成した。



図 4.5.2-1 主要な眺望点及び景観資源と事業計画との重ね合わせの結果



国見山の山頂（1,271m）から南方向の眺望は、白髪岳（1,417m）及び霧島屋久国立公園・霧島地域の霧島火山群を構成する韓国岳（1,700m）、高千穂峰（1,571m）など、景観資源を含む山々がスカイラインを形成している。これら景観資源を眺望するとき、下流方向へ川辺川が貫流する蛇行したV字谷を中央に見通し、遠く人吉盆地を望むことができる。

写真 4.5.2-1 (1) 国見山からの眺望景観（現況）



景観資源を眺望するとき、貯水池、頭地代替地及び付替道路が視野にはいる。

頭地代替地及び付替道路は、国見山の山頂から南方向へ約4 kmに俯瞰するところにあり、眺望景観の中で周辺の樹林地の改変部として出現する。貯水池は、頭地代替地付近から下流の谷沿いに細い水面として望むことができる。

写真 4.5.2-1 (2) 国見山からの眺望景観 (常時満水時の予測結果)



第1期制限水位の時期は、水位維持施設の上下流に異なる水位の水面を眺望できる。
水位維持施設より上流側では20m水位が低下し、頭地代替地对岸付近に水位変動による裸地が見える。水位維持施設より下流側では27.8m水位が低下し、谷に沿って帯状に水位変動による裸地が見える。

写真 4.5.2-1 (3) 国見山からの眺望景観 (第1期制限水位の予測結果)



栴形山の山頂（1,085m）から南方向の眺望は、白髪岳（1,417m）及び霧島屋久国立公園・霧島地域の霧島火山群を構成する韓国岳（1,700m）、高千穂峰（1,574m）など、景観資源を含む山々がスカイラインを形成している。南西方向の眺望には、近景域にある大平付近から下流側の川辺川が貫流する谷を俯瞰し、遠く人吉盆地を望むことができる。

写真 4.5.2-2 (1) 栴形山からの眺望景観（現況）



景観資源を眺望するとき、貯水池及び付替道路が視野にはいる。

貯水池は、榊形山の山頂から東南方向へ俯瞰するところに広く分布し、眺望景観の中で溪谷に満たされる水面が出現する。付替道路は、貯水池の右岸側に付け替えられる部分を、湖面に沿って望むことができる。

写真 4. 5. 2-2 (2) 榊形山からの眺望景観 (常時満水時の予測結果)



第1期制限水位の時期は、常時満水位より27.8m水位が低下し、逆瀬川付近、大平付近、大平の対岸付近及び小浜の対岸付近に水位変動による裸地が見える。

写真 4.5.2-2 (3) 榊形山からの眺望景観 (第1期制限水位の予測結果)



仰烏帽子山の山頂（1,302m）から南東方向の眺望は、景観資源である白髪岳（1,417m）を含む山々がスカイラインを形成している。

写真 4.5.2-3 (1) 仰烏帽子山からの南東方向の眺望景観（現況）



景観資源を眺望するとき、貯水池及び原石山の跡地が視野にはいる。

原石山の跡地は、仰烏帽子山の山頂から南東方向へ約7.5kmに俯瞰するところであり、眺望景観の中で周辺の樹林地の改変部として出現する。貯水池は、原石山の改変部の脇にわずかにその水面を望むことができる。

写真 4.5.2-3 (2) 仰烏帽子山からの南東方向の眺望景観（常時満水時の予測結果）



第1期制限水位の時期は、水位の低下により貯水池の水面は山の稜線に隠れ、水位変動による裸地だけがわずかにみえる。

写真 4.5.2-3 (3) 仰烏帽子山からの南東方向の眺望景観 (第1期制限水位の予測結果)



仰烏帽子山の山頂（1,302m）から東南東方向の眺望は、景観資源である九州中央山地国定公園を含む山々がスカイラインを形成している。

写真 4.5.2-4 (1) 仰烏帽子山からの東南東方向の眺望景観（現況）



景観資源を眺望するとき、貯水池及び原石山の跡地が視野にはいる。

原石山の跡地は、仰烏帽子山の山頂から南東方向へ約7.5kmに俯瞰するところにあり、眺望景観の中で周辺の樹林地の改変部として出現する。貯水池は、原石山の改変部の脇にわずかにその水面を望むことができる。

写真 4.5.2-4 (2) 仰烏帽子山からの東南東方向の眺望景観（常時満水水位の予測結果）



第1期制限水位の時期は、水位の低下により貯水池の水面は山の稜線に隠れ、水位変動による裸地だけがわずかに見える。

写真 4.5.2-4 (3) 仰烏帽子山からの東南東方向の眺望景観（第1期制限水位の予測結果）